まき
発行所 西蒲原郡 巻町公民館
発行責任者 樋口弘雄
印刷所 北洋印刷株式会社

町税の納付はお済みでしょうか。 町民税第2期の納期限は8月31日です。また納税貯蓄組合加入の方々の町民税第1期の納付猶予期限は9月30日までであります。納付のお済みでない方は早く納めましょう。

伸びる巻町住宅地
堀山団地に橋がかかる
既に五〇〇戸建築

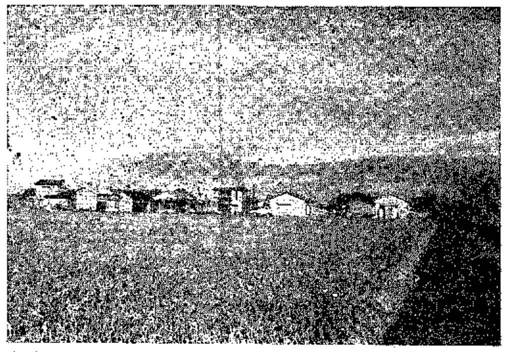
遠くに角田、弥彦山を望み、やがて出始めた稲穂に風が波を作って行く。その波のなびく方向に、さまざまな形、色彩の住宅が建てられ、又そちこちに槌の音、コンクリートを練る人々が立ち働くこの頃の堀山住宅団地である。

九千五百坪の住宅団地の計画は昨年六月に始まり十一月に埋立てや道路作り、排水溝の整備を終り、その年の暮れに三戸が完成した。その頃はまだ電気が点かなかったがそれでも一戸はここで大晦日を過した。二月も末日に電気がついた。この間の不便さは一、二時間の停電の時を想像しても思い知ることが出来る。水道は入居して直ぐ使えたことがせめても幸いであった。

春を迎えて、ふたたび建築工事が始まり現在五十戸が建てられ、四十数戸が入居し生活している。基礎工事を施工中のものは八戸分あり、その他にやり方を行っているのが四戸位ある。

ガスは道路内の本管伏込工事が八月に入って始められたが、今迄は殆どの家庭がボンベによるガスを使用しており、本管から直接にガスが使用できるのは十一月頃となる。

市街地と団地をつなぐものに西川橋があるが愛宕神社の附近にも橋を作ることになり八月十六日に入札が行なわれ施工業者が決定した。橋の名前はまだないが十一月初旬に完成の見込みであり、橋の長さは十七米五十糎有効巾員は四米、鉄筋コンクリート橋で桁は鋼製である。この橋が出来ると団地も近いと感じとなる。


（西手より団地を望む）

住宅を造ると住宅金融公庫資金を借入れることができる。これは一年に二回位あって、七月に申込された方々の抽せんの結果はまだ判らないが第一回申込の当選者で工事を開始された方もいる。この申込資格はいろいろあるが、償還能力のある人、土地のある人、又は買うことの出来る人、借りられる人、確実な保証人のある人等々で、償還は十八年、年利五分五厘である。十万円借りて当初返還するのは一ケ月千円位になる。

申込は四月頃の第一回と七月頃の二回あるがいづれも抽せんが行なわれる。

このようにして町の住宅地造成がつぎつぎと進められ、安価に、しかも長年月の償還は一般より大変よろこばれている。（建設課）

十月一日は国勢調査の日です
九月二十四日頃から調査員がうかがいます

来る十月一日には、全国一せいに国勢調査が行なわれます。

国勢調査は、国のもっとも基本的な統計調査で、全国はもちろん都道府県、市町村ごとの人口の大きさや男女、年令、職業などの人口の構成を明らかにするため、五年ごとに行なわれています。今年の国勢調査は、大正九年の第一回目から数えてちょうど十回目にあたります。

国勢調査の結果は、国や県や町などが、教育、住宅、求人求職、環境衛生、地域開発、交通など、いろいろな問題の対策をたてる場合に欠かすことのできない資料となります。

とくに、最近、就職や出かせぎなどで農村から都市へ移動する人がふえていますので、男女、年令、職業などの構成がかなり変ってきていると考えられます。国勢調査は、これらの実態を明らかにします。

各家庭には、九月二十四日ころから、調査員がおうかがいして、調査票への記入をお願いすることになっています。国勢調査は、九千八百万人にのぼると予想される日本の全人口を、全国いっせいにもれなく調査する大規模なものです。この調査を完全に実施するためには、皆様のご理解とご協力がぜひ必要です。

きたる十月一日を期して行なわれる国勢調査では、もれなく調査票にご記入くださるようお願いします。（企画調査課）

県外研修記
女子青年藤田すみさんの見てきた岩手県紫波町の農家の生活
7月1日より3週間の住み込み

研修地は岩手県の盛岡から南一六キロの国道四号線ぞいにある古館地区で巻町に似た地形をしています。戸数四三四戸、人口二五一五人、専業農家一七〇戸、兼業農家一三三戸、一戸当り水田耕作面積八一アール、畑三四アールで北上川の西岸の平坦地である。朝四時というと、草刈りにいくガーデントラクターの音で村が活気づく。

研修農家は水田一ヘクタール、果樹・普通畑合わせて七五アール、草地一〇アール、三個共同で一二〇〇羽の養鶏をやり、個人でもブロイラー、育すうを二〇〇〇羽をやっている。御主人は長い軍隊生活で体を弱くしてから養鶏を手掛けたという。時間にきびしく、気持のひきしまる思いであった。とかく農業は時間的束縛がなかった為にルーズになりがちだが、この家庭はその点はっきりと守られている。共同養鶏の面も、収支、出荷を一手に引き受け共同の困難さをきりぬけていることは相互間の信頼が第一に必要なものだと感じた。水田、果樹、養鶏を二分した作業で互いに干渉なくして進めている。家計状態の記帳は四年間続いている。このように理想農家といえるが、西蒲原と比べて経済面で恵まれているとはいえないと思う。当地区の婦人会活動は盛んで表彰されたこともあるという活発な方ばかりである。私達との会合は三〇人以上は集まっていたと思う。活動歴は、毎日の食事の組みあわせ、栄養摂取量、行事食、労働食をとりあげて現在まで六年間続いている。調査と学習で各人の新しい食生活が生まれる段階にきているという。

反面、研修地全般にいえることは生活改善が遅れているのである。風呂場は明かりがなく、台所、便所も改善する必要がある。生産に全力が注がれ、日常生活がおろそかになっている状態である。裏を返えせば、経済的に苦しいといえるのではないだろうか。

この研修で西蒲原は恵まれていると身にしみて感じた。婦人会の力で早く生活改善をしていただくよう期待を託して、無事研修を終えることが出来た。

九月の行事予定

（教育関係）
- 教育委員会　1日　午後
- 社会教育委員会　17日　午後
- 町民講座　未定
  三沢保健所長ヨーロッパ視察談とスライド上映
- レコードコンサート　20日　夜八時公民館
- 文化祭打合せ会議　8日　夜
  駒ケ岳ハイキング　下旬
- 町長杯争奪野球大会　上旬
  野球連盟加入16チーム
- 料理学級　25日　午前10公民館
  秋の料理　婦人一般
- 町内校長会議　2日　午前
- 小中学生夏休み採取昆虫植物標本展　2日、3日、4日　公民館ホール
- 婦人映画の夕
- 映写会（四郷屋、布目）
- 青年学級（浦浜、ともしび、理容、丸善）
- 婦人講座（四郷屋、浦浜）
- 体育祭（角田、四郷屋）

（議会関係）
- 九月定例町議会　未定

（役場関係）
- 民生委員会　4日　役場
- 町内保育所保母講習会　下旬
- 農地補償説明会（地区毎）
- 農業委員会　農地部会　3日
- 農政、農業振興両部会　作況調査をかね　4日
- 国勢調査説明会　17日、21日両日　10時より公民館
- 国勢調査（予備調査）　24日より開始

巻町の年輪⑩
精農一途
十区　石田忠太郎 (70)

茶の間の長押に、みごとに磨き出した六尺余の巨木に「五穀豊穣」の金文字を鮮かに浮かした木額がかかっている。この家の老主人石田忠太郎さんの自筆である。

豆粕、鰊粕から、金肥万能時代に入った大正の末期、過度の窒素分施用の風潮から、倒伏する稲が多く、その上田圃の地が悪くなって行くのを憂慮し、「ガス馬鹿」と嘲けられながらも醸工場からクズを買って、せっせと堆肥を入れた。以来、氏の「米づくりは土づくりだ」という固い信念が生まれた。道を歩いていても、土の色気によって収量を予測できるという名人芸はこうして生まれた。

戦後農業災害補償法が施行されるや、町や郡の損害評価委員となり、三十二年永年勤続で表彰されたばかりでなく、二十六年には県下損害評価競技大会には巻町を代表し、第二位をかち得た。

今からみれば娯楽の乏しかった青年時代、バクチでも身上をこわした百姓が多かったとき、正念寺に通って生花、たたみもの、詩道をならったのも当時の百姓としては珍しかったものだ。

今でも床の間の花は自ら盛り、詩道にも親しむ心のもち主でもある。

今年の作況に話が及び、昔から大げさだが『巻の祭り頃は氷屋が鼎ぼしを済るほど涼しい位が作に良い』と言われた。冷害だとさわがれたが、それほど心配したものでない。そのためか今年はウンカも少いようだ。と語る老人には年輪を重ねた悠々たる強信のほどがうかがわれた。

十回を重ねた「巻町の年輪」は、これを以って終りといたします。紹介を心よく承諾して下さった各位、取材に当り御協力賜った方に厚くお礼を申し上げます。尚、十名の方の中、吉川嘉兵衛さんと岩崎寅作さんは故人となられました。つつしんでご冥福をお祈りいたします。（石山）

砂丘

約四百年の昔、即ち文禄三年に与板藩の家臣西山庄左エ門に依って巻町が開かれたといわれている。

その後慶長六年、今から数えて約三百六十年前、大国修理亮親泰が居城してかなり発展したらしく、記録に依ると、城まわり、城の前、西城の前、西くるわ等の地名が残り、よこ町、鍛師町等の町屋敷もあり相当規模の城下町として発展のきざしがあった。

その後城主を失って荒廃し、軽々と領主が変り遂に城下町として発展の機会を得ずに明治を迎えた。

明治十二年に巻村となり、二十二年に堀山新田、昭和になってから赤さびを合併、町村合併促進法に依り今から十年前峰岡、松野尾、角田、浦浜、漆山を合併し新生巻町となりその後旧鎧郷村の南部五部落の合併を見、五年前に安尻、下和納を合併して今日に至っているが、その間、警察、郡役所、中学校、女学校、税務署、裁判所等の誘致に成功しそれに関連して次から次へと新らしい学校、役所等が巻町に集り、全く政治、経済、教育等あらゆる文化の中心となって来た。

如何によき指導者がおったかが想像出来るのである。

そのよき指導者の力に依って今迄発展して来たのであるが、これから先きは果してどうか、ライバル町としての吉田町、西川町は巻町に迫ってドンドン発展している。

好むと好まざるとに依らず我々は第三の変革期といわれる今日只今の巻町町民である。

官、民一致協力してよりよき町作りに専念すべきであり、それまた町民の幸福につながるのである。（鎧潮）

〝議員視察報告〟(2)

農業と観光事業の振展がこれからの巻町の進む方向だといわれているが先進地としての左記両地区の現況は私たちの町の状況とくらべ何を示唆してくれるだろうか。理事者、議員の方と共にわたくし達町民も一緒に考えてみたい。

産業経済委員会

一、参加者　竹内、鹿児島本間、竹之内、真田、井沢、小林（征）議員及び野沢経済課長

二、日程　六月十七日～十九日

三、場所
イ、酒田飽海農業共同経営協会
ロ、蔵王エコーライン

四、視察事項
イ、農事組合法人について
ロ、スカイラインについて

五、視察の内容
◎酒田飽海農業共同経営協会は山形県酒田市にあり庄内農業法人として注目されているところ

1 生い立ち

農業労働力の老令化、後継者の不足、機械化貧乏、加えて労働力の他産業への流出等の農業危機に直面した。これらの問題の解決を共同化に求め昭和三十七年法改正を契期として生産法人を組織した。始め七～八法人を考えたが三十九年には四十七法人が組織された。

2 法人の構成

概ね二町以上の農家で組織され、最少は三戸、最大は二十三戸である。

3 個有財産の導入

(1) 田……使用貸借契約
(2) 農具……小農具は買上げ、大農具類は現物出資
(3) 作業場……使用貸借

4 労働力

労働力は参加農家の働ける者全部を雇っていたが今年から七反歩につき一人の割で雇う事にした。月給は年令給としみ六段階に分け経験給、能力給を加算しているが一万円未満である。ボーナスは三～五ヶ月分を出している。

田の貸借料は法定小作料の外反当二千円から五千円の管理手当を出している。

5 運営経過

「地道な積み重ねに留意」

第一段階＝経営権の確立に重点を置き収入は総て法人のものとした。また組合員には規定による報酬を支払った。

第二段階＝機械化作業による一貫化の方向を実現するためトラクターの導入を考えていた。

第三段階＝現在の経営（稲作）にプラス何々をとり入れ飛躍的増収を計るため組合員の中より稲作、畜産、園芸等の専門従事者を育成しそれを中心として活動を行なって行く。

このように経営権の確立と労働報酬を第一義として漸進的運営を行なうことは保守的色彩の濃い農家に対して賢明であると思考された。

六、問題点

(1) 戸別経営と給与

組合員の収入が給与だけになったので以前の耕作面積（提供耕地）と収入の問題がある。現在前述の通り管理手当として反二千円～五千円支払っているが一種の地代に相当すると思われる。

また始めは全部雇上げたものを七反に一人の割に雇上げることにしたのは提供耕地面積とのバランスを考慮して当然と思う。

(2) 労災、失業保険制度

農業従事者は労務災害は割に少なくないが折角の労災保険制度の活用方法と農閑期が非常に長いので失業保険制度の活用を関係官庁へ働きかけている。この制度が活用出来れば農家にとって大きな福音である。

七、結び

当町と同様単作地帯で行政指導上非常に意義があった。発足して二年目とはいえ山積されている諸問題を着々と解明されている当事者の異常な熱意に心より敬意を表します。

当町は集団栽培を中核として省力化と生産増強を計画しているが生産管理組合による省力化と生産増強が考えられる（特に松野尾地区の稲作について可能性を含んでいる）

蔵王エコーライン

規模は雄大で一見に値するが、やや単調の感じで計画中の角田～弥彦スカイラインがより変化にとみ景色に於ても勝っていると思う。考えさせられる点として

1 滞留施設

開山後二、三年のため未だ充分とはいえずこれからと思われる。このポイントは刈田岳の「おかま」である。角田スカイラインが開通を見たとしたならば角田山頂の遊園地化と併せて角田埼日帰休暇村の推進が必要と思われる。

2 道路

経便な簡易舗装のため三年目で相当破損している。このままでは大変な悪路になりかねない。

3 収支

後二年位で道路（有料）から入いる収入で投資した資金の償還を完了する由。

電話が自動式になったら（その3）

自動電話のかけかた

1．Oも電話番号です

市外局番の最初の数字は必らずOがつきますが，このOも番号の一つですから忘れずにダイヤルするよう特にご注意下さい。
たとえば新潟の44―0024番へかけるときは，
0.2.5.2. 4.4. 0.0 4.2……の順にダイヤルを廻して下さい。
（0.2.5.2. 市外局番　4.4. 市内局番　0.0 4.2 加入者番号）

2．自動電話に切替後2～3日間のご利用について

大変勝手なおねがいですが自動電話に替えられてから2～3日の間，一時的に電話のご利用が急激にふえて機械が故障するおそれがありますので，できるだけお急ぎでないお電話は夜にお廻し下さるなど，ご協力の程，お願いします。

3．8月29日から新潟の市内局番が2ケタになりました

市内局番の変更内容

現在	8月29日から
2局	22局
3局	23局
4局	44局
5局	45局
6局	66局

（巻電報電話局）

ダイヤル式自動電話に切替（9月5日午前0時から）

いよいよ9月5日午前0時から最も新しい自動式電話へ切替えになりますのでお知らせ致します。

鎧潟の調査すすむ

今秋には、水がなくなる鎧潟の調査が、急ピッチで進められている。五年間にわたるこの調査は、陸水、生活、考古、植物、魚貝、昆虫、鳥類、地質、歴史の各部門の外、四季の写真、スライド等、沢山の資料を収集、作成してきている。

この調査を担当して下さった方は、新大理学部長西田先生、巻高斎藤（幸）先生、峰中山崎先生、漆中長島先生、新潟後藤光衛先生、与板千羽先生の外、町の上原甲子郎、斎藤順作、横田栄三郎、渡辺悌二、高井寅一の諸氏と、教委、公民館の職員が当っている。

去る八月二十三日、一行は二隻の船に分乗して、最後の水面調を行なった。

（写真は調査員の一行）

〝巡回税務（国税）相談所開設〟

これは国税に対する皆さんの不平，不満，取扱い上の疑問点などについて，気やすく相談するところです。
皆さんの積極的な利用を望んでいます。

開設日時　9月6日（月）午前10時～午後4時まで
所　巻町商工会
担当官　国税協議団新潟支部協議官

（税務）

〝小中学生将棋大会〟

夏休み中に巻町小中学生将棋大会が公民館ホールで開かれた。
当日は五十余名の小中学生が参加、熱戦を展開し技を競った。
入賞者は次の通り

小学生の部
一位　巻小四年　玉木満智雄
二位　巻小五年　花岡進一郎
三位　巻小五年　伊藤工
三位　巻小三年　両須原薫

中学生の部
一位　漆中三年　尾張部満
二位　峰中一年　石田彰
三位　巻中三年　山岸勉
三位　巻中一年　筒井信昭

〝農業委員会委員改選〟

8月9日の任期満了に伴い，8月10日から今後3年間農業委員会委員として次の方々が当選及び選任され部会を構成した。

会長　中野文作　　職務代理　小林太一

	農地部会		農政部会		農業振興部会
部会長	阿部東一	部会長	竹内十次郎	部会長	岡村武夫
部会長代理	佐藤佐四郎	部会長代理	大滝金吾	部会長代理	大越嘉市
	高村一男		高村一男		高村一男
	金子福一		飯塚謙一		飯塚謙一
	小林誠司		酒井与三右エ門		田辺安吉
	番場善衛		花岡利勇		佐藤惣次郎
	石山寅一		田辺安吉		小田一男
	斎藤牛男		番場善衛		小林太一
	青柳喜一郎		高杉嘉蔵		高杉清綱
	渡辺三一		小林太一		長谷川定市
	鈴木茂		岡村武夫		渡辺三一
	山崎石太郎		藤田滲作		佐藤佐四郎
	渡辺久治		長谷川定市		鹿児島秀一
	田辺石蔵		渡辺三一		渡辺久治
	河村大作		笹川山一		小林重司郎
	福田幸平		山崎石太郎		真田関衛
	堀内正司		小林重司郎		福田幸平
	梨本重一郎		川村平作		川村平作
	近嵐惣一郎		大越嘉市		篠沢利一
			梨本重一郎		花岡利勇

9月の検査と予防接種

	検診と健康相談（乳児，3才児 妊婦，老人）	予防接種（ジフテリヤ 百日咳，混合）
1日	乳児（公民館）　老人（病院）	
2日	老人（病院）	
3日	3才児（漆山駐）　老人（病院）	
6日	老人（病院）	一般　四ツ郷屋小　峰中
7日	妊婦（保）	一般　浦診，巻公民館
8日	老人（病院）	一般　巻公民館
9日	老人（病院）	一般　越前小
10日	3才児（峰中）　老人（病院）	一般　松野尾小，漆山駐
13日	3才児（巻公）　老人（病院）	
14日	妊検（保）　3才児（松保育所）	
15日	3才児（越前小）　老人（病院）	
16日	老人（病院）	
17日	老人（四ツ郷屋公）	
21日	妊検（保）	
22日	妊産婦（漆駐）	
27日		一般　四ツ郷小　一般　峰中
28日		一般　浦診
29日		一般　巻公民館
30日		一般　越前小

おらが老人クラブ

漆山南部寿クラブ

田んぼの中

巻町の南端、吉田街道に沿って、細長く連なる並岡、十二原、栄町、上組、桜林の五部落がある。ここの老人達、八十三名で結成されている漆山南部寿クラブは、昭和三十八年十一月に佐藤与嘉治氏を会長に発足した。

会員は平均耕作面積が二ha以上の水田単作農家というだけあって、軒先から続く稲田も出穂前の大きなフクラみを風に波うたせている。

老人は老人なりに、はなやかな事が出来なくて……と、副会長の伊藤吉治さんは、やわらかな物腰で多くを語らない。

それでも昨年は、雑布をつくり、竹箒をつくって、寺院や保育所へ贈って喜ばれている。またお宮の掃除はわし等の手で、と、年三回にわたって清掃し、境内の樹木を伐採したあとの空地に、杉苗三十本を植樹するなど、子孫のことまで気をつかうあたり、老人でなくては考えつかないことである。水田地帯の秋も間近かだ。「わしらが若いときは、この田の面を渡る盆踊りの太鼓の音が聞かれたものだが、今はもう蛙の鳴声も聞かれなくて―」と、昔を懐しみながら、伊藤さんは翠の支え竹から手を休めない。

この秋の菊花展を目ざして、愛好者十名程の会員は翠づくりに楽しみを見出しているという。秋が終ったらまた、全員でバス旅行し、岩室の湯につかってノンビリと一日を過ごして来るのだと、会員達は、今から待ちわびている。